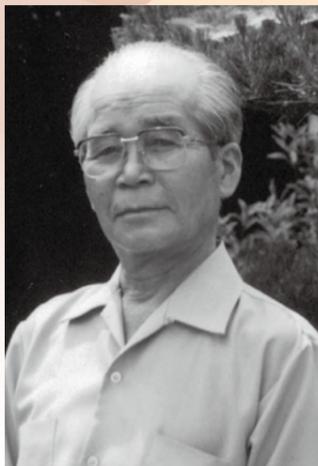


# このひとをじっくり見ますか？

## 第19回

### 大木晴峯 おおき せいほう (大正8年～平成4年)



明戸小学校には、一つの「金次郎」木像が残っています。この像は、当時、明戸尋常高等小学校に在学中だった大木晴峯が彫ったもので、後年、陸軍大演習が埼玉県下で挙行された際には、『天才大木少年の作』として昭和天皇にご高覧いただくこととなりました。

晴峯は、弟子入りするとすべに頭角を現し、師匠は多くの兄弟弟子たちを差し置いて、重要な仕事を晴峯に任せるようになります。しかし晴峯は、毎日鑿を握れるといつれしさの反面、師匠から指示されるままに像を仕上げるだけの日常に、次第にむなしさを感じるようになり、それは自分を表現できていない、という思いから、折しも、家族から帰郷の催促が来たのを機に、晴峯は郷里に戻る決意をします。

折しも、家族から帰郷の催促が来たのを機に、晴峯は郷里に戻り、夜は鑿を握る生活に変わりました。農業が生活の中心となり、妻と共にネギ、キュウリ、ホウレン



▲20代の頃、神奈川県内の寺で烏天狗の像を彫る晴峯

ソウなどの栽培に熱心に取り組んだので、周りの人々には「野菜作り」に精を出す「石工門さん」として映らなかったことでしょうか。しかし、夜には野菜の出荷準備をする妻の傍らで、彫刻にいらしてました。

晴峯が創作活動に重点を置くようになったのは、五十歳を過ぎてからでした。えりすぐったケヤキの材を前に、ただ一人超然とした鑿さはきき創り出されるその像は、魂が宿っているかのようで、今にも動き出しそうな躍動感がありながら、見るものを安心させる安定感もあります。

作家として世に広く知られることはありませんでしたが、七十二歳で生涯を閉じる間際までその手から鑿を離さず、創作意欲は衰えませんでした。それも先達の「天才」たちと通じるところです。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

### 不世出の孤高の彫刻師【深谷市沼尻】

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進



## 美しく住みよい地域をつくるために

8月のお盆が明けてから、毎年恒例の自治会の道路要望に関する現場確認に伺い、危険な場所や舗装が必要な場所など、それぞれの地域でお困りの現場を確認させていただきました。

自治会の皆さんには、暑い中ご協力いただき、ありがとうございます。そして今回、たくさん現場を確認する中で、あらためて強く感じたことがあります。それは、道路の維持管理は行政だけでなく、自治会をはじめとする地域の皆さんの協力がなくては成り立たないものだ、ということ

側溝の取り付けや舗装の打ちかえなどの道路改良工事は、行政でなくてはできませんが、道路の美化活動は、現在も地域の皆さんやボランティアのかたに、多くの役割を担っていただいております。例えば、道路側溝の泥上げやこみゼロなどを通じた道路の清掃、あるいは道路脇に花を植えるなどの活動です。

このように、道路の美化活動をはじめとした美しく住みよい地域をつくり、守る活動には、地域の皆さんのご理解と協力が欠かせません。

特に、美しく住みよい地域を守っていくためには、行政がやるべきことをやるのはもちろんですが、それと共に、『みんなで使おう』のは、みんなできれいにしよう』という考え方がとても大切だと思っています。

市も、道路側溝の泥上げを行っていた際には、「連絡したければ泥の回収に伺うなど、道路の美化活動を支える取り組みを進めてまいりますので、これからともに、美しく住みよい深谷をつくっていきましょう。」

### ありがとうの手紙



優秀賞  
小学校低学年の部  
なかよしのゆうびん屋さんへ

花園小学校3年(現4年) 加藤心優さん

わたしの家にきてくれるゆうびんさんの中で、ちょっととくべつなゆうびんさんがいます。

ふつうはポストへ入れるけど、そのゆうびんさんは、いつもニコニコわらっていて手わたししてくれます。

きょ年スイカのたねからめが出て、ゆうびんさんがすいかのそだて方を教えてくださいました。そうしたら、とてもおいしいスイカができました。

今年もおいしいスイカができればゆうびんさんに分けてあげるね。

### みんなの声BOX

Q 新庁舎建設に向けて市民説明会などの開催予定はありますか？

A 平成29年1月までに、新庁舎の具体的な内容を定めた基本設計(案)を作成します。この基本設計(案)に関する市民説明会を、2月に開催する予定です。

市民説明会のほかに、市民の皆さんから意見を伺う機会として、パブリックコメントの募集も行う予定です。

詳しくは、市ホームページや広報ふかやなどでお知らせします。

問い合わせ 新庁舎建設推進室(☎501-2610)